

教科「地歴公民」

科目「課題世界史」

(3年次文型 課題世界史との選択)

単位数	4単位
担当者	大谷拓郎
教科書	改訂版詳説世界史B (山川出版社)
副教材等	グローバルワイド世界史図表 (第一学習社) 必携世界史用語 (実教出版) 新世界史要点ノート応用編 (啓隆社)

【1】 科目の目標

世界史の全体像を学んだうえで、紛争やテロ、環境問題、文化摩擦など、現在の国際社会が抱える諸課題について認識し理解を深めるとともに、その解決に向けて主体的に関わろうとする資質を養う。

【2】 科目の内容と進め方

- 1学期：19世紀間の世界の再編と欧米列強の台頭について考察する。
- 2学期：20世紀間の二つの世界大戦と戦後世界の推移について考察する。
- 3学期：分野別の歴史的展開をまとめ、世界史を総合的に考察する。

【3】 学習形態

基本的には教室でおこなうが、必要に応じて座学だけではなくグループ学習やペアワークなども随時おこなう。

【4】 学習上の留意点

現在、世界が直面している諸課題は非常に複雑な要因と背景をもって発生しており、こうした課題を解決しようとする場合、歴史的洞察を基にした幅広い視野が不可欠となる。2～3年次と世界史の基礎的知識を学習した上で、それを課題解決につながる総合的な歴史の力に高めていくことで、本校の教科目標に掲げる「国際社会において主体的・平和的に生きる資質」を養う。

【5】 評価の方法と評価の観点

① 評価の観点

- 1 関心・意欲・態度：テーマごとの歴史の推移・展開についての関心を高め、現代とのつながりも意識しながら歴史事象の意味を主体的に考察しようとしたか。
- 2 思考・判断・表現：歴史の推移を因果関係に基づいて追究し、根拠を示して歴史の展開を説明できたか。
- 3 資料活用 of 技能：各種資史料を収集し、読み解き、活用して歴史事象を分析・説明できたか。
- 4 知識・理解：各時代や地域の歴史の展開を、歴史的背景や因果関係と関連付けて理解できたか。

② 評価の方法

- ・定期考査や長期休業明けの校内模試では、世界史の基礎知識のみならず歴史的な思考力や史料の読解力、背景・原因などを論理的に洞察し説明できる表現力も評価する。
- ・学習課題や演習に積極的に取り組む姿勢や、授業での活動の様子なども見ながら、課題の提出状況やその取り組み内容でも評価していく。
- ・世界史で学んだことを、現在の具体的な国際問題と結びつけて考察し、その解決に向けての自分なりの提案ができるかどうか、レポートや論述演習などでも総合的に評価する。

【6】 その他 なし